

令和3年度 新川みどり野高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動（学習指導）
重点課題	生徒の実態把握による適切な受講登録とわかる授業の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校には不登校経験者が多く、基礎学力が定着していない生徒がいる。</li> <li>・様々な理由から、転入学生や編入学生が多くいる。</li> <li>・進路希望は就職希望から四年制大学への進学まで多岐にわたる。</li> <li>・学習への目的意識に乏しく、安易な欠席や遅刻が見受けられる。</li> <li>・互見授業を実施しているが、生徒へのフィードバックに課題が残る。</li> </ul>
達成目標	講座出席率と単位修得率
	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒や学習習慣が身に付いていない生徒が授業に参加できるように、学校全体で学習の支援にあたる。</li> <li>・多様な生徒のニーズに応じた、弾力的な教育課程の編成に努める。</li> <li>・HRや面談を通じ、一人一人の目的に沿った無理のない受講登録を勧める。</li> <li>・生徒、教員（担任・授業担当者）、保護者との連携をとっていく。</li> <li>・ICTの活用を通して、生徒の学習意欲の向上に努める。</li> <li>・教科内や教科を横断して学習活動や指導方法の工夫を図り、生徒が主体的に参加できるように、わかる授業の実践に努める。</li> </ul>
達成度	講座出席率 82.9% 単位修得率 88.1%
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業や習熟度別授業の中に中学校の振り返りを取り入れながら、生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を行った。</li> <li>・令和4年度に新学習指導要領の導入を迎えるにあたり、年次(夜間)や各教科との連携を図りながら、生徒一人一人が自己実現できるような教育課程の編成に取りかかった。また、「総合的な探究の時間」をテーマ別探究活動に再編成し、キャリア教育に生かせるように配慮した。</li> <li>・新しい観点別学習状況の評価の導入に合わせて、次年度の年間指導計画を作成し、学習のねらいを明確にする。</li> <li>・ネットワーク管理者と連携を取りながら、ICT機器の活用を推進した。</li> <li>・教科を横断して授業を参観する互見授業や県教育委員会の学校訪問を活用して、教科内で指導の問題点や指導方法を協議し授業改善に生かした。</li> </ul>
評 価	A
学校関係 者の意見	目標数値はパーセントではなく人数でも良いのではないかと。また達成目標の数値設定の根拠を明確にすることで数値の意味が分かるようにして欲しい。達成目標は評価規準から考えて80%だと思うが、目標は100%であるべきである。今年度もコロナ禍での教育活動なので学習活動においても苦勞していると思うが、もっと叱咤激励をしながら指導に当たってほしい。
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行課程と新課程の生徒が混在する次年度以降も、年次(夜間)や各教科との連携を図りながら、生徒一人一人が自己実現できるような教育課程の編成に取りかかる。</li> <li>・コロナ禍における生徒の学習を保障するために、ICT機器の活用を一層推進し、オンライン授業を始めとした指導体制を整備していく。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。)

重点項目	学習活動（福祉教養科）	
重点課題	社会福祉に対する興味・関心の向上と基本的知識・技能の習得、及び思いやりの心の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次生から実習・体験、専門家による講義等を計画的に取り入れ、福祉に対する興味・関心を高めながら、福祉マインド（思いやりの心・自主性・協調性）を育成している。</li> <li>・今年度の介護職員初任者研修の受講生は1名(対象生徒3名中)である。</li> <li>・福祉を学び、昨年度卒業後に福祉・医療系へ進んだ生徒は1名(2名中)であった。</li> </ul>	
達成目標	①「学校生活・福祉についての自己評価表」で各項目が向上した生徒の割合（現状維持を含める）	
	②里孫活動への参加率	
	①80%以上	②80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活を確立した学校生活を送るために定期的に担任との面談を行う。</li> <li>・生徒の個々の福祉マインド（思いやりの心、自主性、協調性）の育成を図るために、授業をはじめ様々な科の体験学習や取組、ボランティア活動等を行う。</li> <li>・1年次生から介護職員初任者研修の資格取得に向けた働きかけを行う。</li> <li>・生徒がオープンハイスクールや学校見学会での福祉教養科の紹介をすることで自らが福祉を学ぶ意義について考えさせる機会を設ける。</li> <li>・前期と後期に生徒の自己評価表を用いた調査を実施する。</li> </ul>	
達成度	①63.6%（学校生活81.8%、学習態度72.7%、福祉54.5%） ②50.0%	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活態度・福祉についての自己評価表」では、今年度もコロナ禍での教育活動ではあったが、担任と教科間での情報交換を重視し、生徒との面談を多く取り入れながら、福祉体験、里孫、文化祭、合同HR等の諸活動に取り組んだ。</li> <li>・里孫活動では、訪問活動が殆ど出来なかったもので、施設や里親さん向けに様々な作品作りに取り組み、定期的に届けた。また環境美化活動として、施設の外回りの清掃活動に取り組んだ。</li> <li>・介護職員初任者研修では、学習や実技において、放課後を利用しての補充や個別指導を強化した。来年度の研修対象者と保護者には、面談等で研修への理解と受講への働きかけを行った。</li> </ul>	
評 価	①D	②D
学校関係者の意見	コロナ禍の中ではあるが里孫活動を継続し、施設との交流をしてもらいたい。また県東部唯一の福祉を学べる学科なので福祉に係わる人材育成をお願いしたい。取組みに関しては、生徒の自己評価だけではなく、友達同士の他者評価を取り入れるなど、評価方法の工夫を考えてみてはどうだろうか。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別及び年次生の学力の伸長と学習補充、進路実現に向けた指導を行う。</li> <li>・行事等に生徒が主体的な取り組めるような方策を工夫する。</li> <li>・コロナ禍における外部施設との交流を継続していくためのより一層の工夫を考える。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった。)

令和3年度 新川みどり野高等学校アクションプラン - 3 -	
重点項目	学校生活（生徒指導）
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的にあいさつを交わす学校生活（基本的生活習慣）</li> <li>・ルールやマナーを意識した学校生活（基本的生活習慣）</li> </ul>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣（あいさつ、場に応じた言葉遣い、入退室マナー、身だしなみ）が確立されておらず、普段の生活で「けじめ」を欠く生徒がいる。特に「あいさつ」については、多くの生徒が教師やごく親しい友人とだけしか交わしておらず、一日に校内であいさつを交わす相手が5名以下の生徒が6割を占めている（「あいさつに関するアンケート」の結果より）。友人や教職員と気持ちよくあいさつ交わすことを「基本的生活習慣の確立」のスタートラインとしたい。</li> </ul>
達成目標	一日に校内であいさつを交わす相手が6人以上の生徒
	50% （令和2年度調査では37%）
方 策	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生活委員会の活動を活性化させ、「あいさつの推進」について、生徒自らが考え全校生徒に働きかけさせる。</li> <li>② 以下3点について、全職員の共通理解を図り取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員からの積極的な「あいさつ（おはよう、こんにちは、こんばんは）」を推進する。（登校時、教室入室時、休み時間、下校時等）</li> <li>・授業の始まりと終わりの「あいさつ（お願いします、ありがとうございました等）」をしっかりと行わせる。</li> <li>・職員室への「入退室心得」を活用し、場と状況に応じた言葉遣いやマナーを指導し意識させる。</li> </ul> </li> </ol>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>※一日に校内であいさつを交わす相手が6人以上の生徒 35%</li> <li>※生活委員のあいさつ運動に対する返答 75%（12/21実施）←58%（5月実施）（令和2年度調査では65%）</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒玄関等でのあいさつ運動（生活委員会）</li> <li>・教職員による登校時のあいさつ指導（年次、生徒指導部等）</li> <li>・身だしなみ基準見直しに向けた意見交換（生徒会執行部、生活委員、顧問）</li> <li>・スマホの使用マナー向上に向けたポスター制作と掲示（生活委員会）</li> </ul>
評 価	C
学校関係者の意見	「あいさつ」をしたくてもできない生徒がいるので、一概に「あいさつ」を求めることもどうかと考える。生徒たちだけに頑張りを求めるのではなく、教員も生徒の頑張りを汲み取れるように協力して欲しい。評価は生徒本人の自己評価だけを利用しているが、「あいさつ運動」では友達同士などの他者評価も利用することで違った結果も出てくると思われるので、そのような取組も行って欲しい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの結果からは、6割程度の生徒が教員やごく親しい友人としかあいさつを交わしていない結果が見てとれる。生活委員があいさつ運動を実施しているが、その効果は、生徒間の日常的なあいさつに繋がっていないのが現状である。生徒同士の関わりをいかに深めていくかが課題である。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

重点項目	学校生活（保健指導）	
重点課題	メディア（インターネット等）利用に起因する睡眠を中心とした生活習慣の見直しと改善	
現 状	<p>・昨年度実施した睡眠アンケートから「不眠症の疑いがある」となった生徒が35%いる。また、本校生徒のメディア利用の平均時間が約5時間ということが分かった。その中でもメディア利用の時間が長い生徒ほど就寝時刻が遅く、睡眠時間が短い傾向にあることが判明した。このことからメディア利用が生活習慣の乱れの要因の一つとなり、登校することができない生徒や、登校しても体調不良を訴える生徒が多数いる。生徒の中には「生活習慣を改善したい」という気持ちがあるが、「メディアへの欲求に負けてしまい、どうしても良いか分からない。」という意見もある。生徒の健康を考える上で、生徒自身が睡眠の重要性を知り、生活習慣を改善し、心身の健康増進に繋げていく態度を育成していく必要がある。</p>	
達成目標	メディア利用や生活習慣についての自己目標を達成できた生徒の割合が80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR等で長時間のメディア利用が与える心身への影響についての保健指導を行い、利用状況に応じた個々の目標を立てさせる。</li> <li>・ほけんだよりや校内掲示物にて長時間のメディア利用が生活習慣に及ぼす影響について知らせる。</li> <li>・睡眠時間やメディア利用時間に使っている時間を一人一人に意識させる。</li> <li>・生徒保健厚生委員や学校保健委員会を利用し、本校生徒の実態とより良いメディアとの関り方について調査・発表する機会を設ける。</li> <li>・生徒に睡眠とメディアについての知識を与えるために、講演会を企画する。</li> <li>・病気に起因する睡眠障害がある生徒は、個別指導を行う。</li> </ul>	
達成度	自己目標を達成できた生徒の割合が70%(11月現在)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に生活習慣チェックと共に年間の生活目標を立てた。目標が具体的になるよう個別指導を実施した。48%が睡眠改善、14%がメディア利用について目標をあげている。</li> <li>・ほけんだよりで睡眠の重要性を啓発すると共に、睡眠チェックの結果配布時には普段の様子等からみた個々に合わせた睡眠改善のアドバイスを記入した。特にメディア利用が長時間の生徒には、利用時間の見直しを提案した。</li> <li>・新川キャンパスフェスティバルでは、気持ちよい空間やリラックスを実感することが実践につながると考え、推奨される睡眠空間の展示、睡眠体操の実演、手浴足浴体験など、体験型の展示を行った。</li> <li>・学校保健委員会を2回実施。1回目は、生徒保健厚生委員から睡眠チェックの結果と生活状況から本校生徒の睡眠の実態と問題点について調査し、クイズを交えてわかりやすく発表した。2回目は、富山大学名誉教授日本睡眠改善協議会理事の神川康子先生をお招きし、講演を行った。睡眠が脳や心に及ぼす影響についての講演を聞き、生徒から積極的に質問する姿が見られた。</li> </ul>	
評 価	C	
学校関係者の意見	富山大学から講師を招いて全校生徒で話を聞くことは良いことである。また、生徒の自己評価や自主的な面を尊重していることは評価できる。気になる生徒については教員もチームを作って声がけをすることも1つの方法である。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠の改善には継続した指導が必要であるため、次年度も継続して実施していきたい。</li> <li>・まだ、生活習慣の見直しが出来てない生徒に対し、意識付けのアプローチを行っていくとともに、今年度以上に生徒保健厚生委員会を充実させ、生徒たち自ら考え、改善していく力を養っていきたい。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。)

重点項目	特別活動（委員会活動）	
重点課題	委員会活動の活性化	
現 状	<p>昨年度から本校の委員会（文化委員会、広報委員会、スポーツ委員会、生活委員会、保健厚生委員会、図書委員会）は、毎月特活部が指定した委員会開催日を設けることで6～11月までに各委員会が4～5回程度開催し、生徒の出席率も約75%と、一定の成果が見られた。</p> <p>しかし、現状では特活部の指定日以外に、各委員会が自発的に開催することは（一部の委員会を除き）あまりみられない。委員会を活性化するためには、各委員会による自発的な活動や、生徒が自主的、実践的な取り組みができるような工夫を行うことが重要と考えられる。</p>	
達成目標	<p>各委員会活動の実施回数</p> <p>※特活部が指定する開催（活動）日と各委員会が自主的に開催（活動）した日の合計。「開催（活動）日」＝各委員会が委員会全体で実施する話し合いや活動等を行った日</p>	
	各委員会、月1回程度の活動日を設ける	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特活部が指定する委員会の開催日を増やすと共に、指定日以外でも委員会の開催（活動）日を自主的に設定することを促す。</li> <li>・異なる委員会同士が、協働で実施する活動機会の設定の工夫を行う。</li> <li>・委員会活動の様子及び成果等を発表する機会を設ける。</li> </ul>	
達成度	各委員会、月平均1回以上（1.23）の活動を行った	
具体的な 取組状況	<p>【独自開催】特活部が指定した開催日（以下、指定日）は、前期3回、後期2回（12月迄）の計5回（昨年度は4回）。指定日以外での独自開催を多く実施し、全委員会（選挙管理委員会は除く）の、指定日と独自開催を含めた開催数の平均は、9ヶ月（4月～12月）で11.5回であった（月平均1.23回）。生徒の参加率は77.5%（指定日と独自開催の全委員会の平均生徒参加率）。</p> <p>【複数の委員での協働活動】文化祭企画での複数の委員による共同開催（広報委員および文化委員）、「さわやか運動」をクラス委員や生徒会執行部と協働で実施、「身だしなみについて」の意見交換を生徒会執行部と合同で実施（以上、生活委員）、学校保健委員会の報告および発表を全校生徒参加のホームルームで実施（保健委員）。</p> <p>【活動成果の発表の機会】県大会出場者の抱負を掲示、スポーツテストの上位者を掲示（以上、スポーツ委員）、生徒会機関誌「新樹」を創立20周年記念としてクイズで紹介（広報委員）、校内での挨拶の返答率の集計、さわやか運動の看板作り（以上、生活委員）、睡眠調査アンケート結果報告、睡眠クイズ、睡眠体操（以上、保健委員）、生徒会長選挙に関する告示など、全校生徒への周知を目的に、掲示だけでなく全校集会時にも伝達（選挙管理委員会）。</p>	
評 価	A	
学校関係 者の意見	<p>コロナ禍の中で生徒会活動・部活動においても苦労していると思うが、出来る限り対話的な活動を通して、生徒の登校意欲を高めて欲しい。生徒によっては学習活動以外の活動（部活動・生徒会活動）のために登校することが大切だと考える。いろいろな活動で生徒を学校に引っ張って欲しい。</p>	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特活部指定の開催日について、複数の委員を兼任している教員と生徒がいることから2日間連続での開催をしていたが、開催日は清掃を行わないことによる校内環境が問題となり、年度途中から1日開催にした。昼休みに実施するには、時間が短い等の問題もあり、委員会の実施時間帯の確保に課題を抱えている。</li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）